



## 大幅賃上げを勝ち取ろう！ 一切の組織破壊攻撃を跳ね返そう！ 第38回定期中央委員会開催

JR東海労は2月11日、名古屋市で第38回定期中央委員会を開催しました。

淵上委員長は、挨拶で「昨年の臨時大会で、JR総連との決別を確認した。JR東海労の闘いの足を引っ張る人たちはいなくなった。闘う労働組合として、全ての労働者の連帯を目指して、今2025春闘を闘う。JR総連第48回定期中央委員会の報告がされた『JR総連通信』1805号には、JR総連としての統一要求・統一闘争は形式的にも無くなったようだ。未組織労働者との連帯を目指す具体的な取り組みとして、JR東海労本部内に『労働者支援相談センター』を立ち上げたい」と訴えました。

今委員会で、査問委員会からの答申を受け、藪秀一君、田村浩彰君、森下暢紀君の除名を全中央委員の賛成多数で決定しました。

来賓は、JS労柳楽委員長、本部OB会増田会長が出席しました。柳楽委員長は「この間、団体交渉は14回開催し、悩んでいる方や困っている方が何でも話のできる相談室を開設した」と挨拶しました。増田会長は「本部OB会の解散の目的は、セン労を支持するOB会にすることであり、組織破壊攻撃であった。しかし、名古屋地本OB臨時総会で闘った結果、臨時総会での結論は出されていた。彼らは逃げ場を求めて退場した。OB会は現職の仲間と共に闘う」と挨拶しました。

質疑では、JR総連・セン労・一部OBからの組織破壊攻撃を跳ね返す闘い、第三者機関を活用した闘い、OB会員が組合員として奮闘する決意、地域の仲間との連帯など、実践的な闘いの発言が相次ぎました。

本橋書記長は、総括答弁で「JR総連山口委員長から『2029年解散』と言われたときは、これではダメだと確信した。査問委員会から3人に除名が出された。3人の行為は犯罪的であり許されない行為だ」と訴えました。

最後に、淵上委員長の団結ガンバローで委員会は成功裡に終了しました。

